

TIJ 日本語教育研究会通信

No.56 2015.1.30 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 /Fax:03(5607)4102
E-mail: tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



2015年が明けて早くも一か月が経過しました。今年もよろしくお願いいたします。

2月25日に今年もTIJ文化発表会を開きます。3月に卒業する学生たちが、学習の成果を発表します。自由に参観できますので、皆様お誘い合わせの上、ご参観ください。

昨年7月にTIJで日本語教材法の研修をされた中国浙江省の日本語の先生たちの研修レポートを本号に掲載いたしました。

また、現TIJ講師が中国の大学で日本語を教えた体験記と、現TIJ職員が中国に留学した時の体験記を掲載しましたので、どうぞご一読ください。

【本号の内容】

1. 「TIJ文化発表会」のお知らせ
2. 日本語教授法研修レポート
3. 北京の日本語教育体験
4. 留学体験記（中国 復旦大学）

「TIJ文化発表会」のお誘い

2月25日にTIJ文化発表会を開きます。この3月に卒業する学生たちが学習の成果を発表します。

どなたでも参観できますので、皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。ご参加いただく場合は、メールまたは電話にて事前にご連絡いただけると助かります。

期日：2015年2月25日（水）

時間：午前9時半から11時半まで

場所：新小岩地区センター4階大ホール(新小岩駅南口より徒歩5分)

内容：上級クラス プレゼンテーション

中級クラス 川柳

上級・中級クラス スピーチ

日本語教授法研修レポート

昨年7月にTIJで日本語教授法の研修を受けられた中国浙江省平湖市職業中等専門学校の日本語の先生2名から研修レポートが届きました。別の1名の先生のレポートは、すでに昨年9月発行の日本語教育研究会通信第55号に掲載済みですので、そちらと合わせてご覧ください。

感想文

丁麗

昨年、7月13日から8月1日までTIJ東京日本語研修所で日本語の教え方について見学しました。その間に、日本の三大都市も見物しました。日本についての印象は三つの言葉で説明できます。それは「きれい」、「発達」と「親切」です。

まず、日本の町はとてもきれいで、特に車のタイヤのリムは驚くほどきれいです。町にはごみ箱も少なく、自分のごみは持って帰らなければなりません。また、日本はとても発達していて、自動販売機がどこにでもあります。レストランでの注文も自動販売機でできます。先進的な技術のおかげで、生産のコストも下げることができました。日本に来る前に、日本人はとても優しく、親切だと聞きました。日本に来て、改めて日本人の優しさに感動しました。浅草で、自分で予約したホテルが見つからなかった時のことです。ある若いお嬢さんが困っている私たちを見て、「どうしましたか。」と聞きに来てくれました。また、ホテルまで案内してくれました。このことはいつまでも忘れられないです。

TIJ東京日本語研修所で12時間の授業を見学しました。TIJの先生方はみんな優しく、親切です。留学生達はいろいろな国から来ていて、みんなTIJに集まって、まじめに勉強しています。TIJでは、日本語のレベルによって、クラスを上級、中級、初級

に分けています。今度、私たち3人は初級と上級のクラスの授業を見学しました。上級の学生はもちろん、初級の学生もみんな一所懸命日本語で話しています。一番印象深かったのは上級討論とディベートの授業です。授業の中で先生は一つのテーマを出して、学生たちにそのテーマについての主張を発表させました。上級クラスの学生たちは日本語のレベルがとても高いです。発表も素晴らしかったです。このようにして、留学生達の会話能力、実際の応用能力は効果的に上げられています。また、初級の授業も面白かったです。たとえば、ある先生の授業で留守番電話の練習をやる時、先生は学生たちの発表を録音しました。その後、録音を流して、学生に聞かせました。自分の声を聴いたとき、学生たちはみんな笑いました。こんな活動を通して、学生たちの勉強意欲を引き上げています。

外国語を勉強している私たちにとって、実用生活でよく使うのがやっぱり一番いい方法だと思います。また、学生にとって勉強は重要ですが、異文化をいろいろ体験して、視野を広げて、自分を成長させるのが一番大切だと思います。楽しいことであろうと、辛いことであろうと、全部成長の材料です。辛いのは嫌いかも知れませんが、辛い目に遭ったからこそ、人生を見直して、前向きに精一杯やる気を出すことができます。いつか困難にあっても、きっと落ちついて生きて行けます。だから、外国語を勉強するポイントは、言語を習うことはもちろんですが、その国も文化も勉強することだと思っています。

TIJでの見学は短かったですが、大変いい勉強になりました。機会があれば、もう一回見学に行きたいです。これから、TIJの先生方の教え方を自分の授業でぜひやってみたいです。



T I Jでの研修の感想

崔秋玉

T I J 東京日本語研修所の皆様のおかげで、今年の7月13日から8月1日まで、私たちは日本へ日本語の授業を見学に行くことができました。今回、かねてからの憧れの国に行けるのが、本当にうれしかったです。夢が実現できて、まことにありがとうございました。

先輩から日本のことをよく聞きました。「日本はいつでもどこでも清潔です。空気もきれいです。交通費がとてもかかりますが、きわめて便利です。みんな礼儀正しくて、親切です。…」いろいろ聞いて、あふれるばかりの好奇心を持って、日本に来ました。日本に来てから自分の目で見て、日本は確かにそうだとわかりました。

今回私たち3人はT I J 東京日本語研修所に来て、約二十日間、日本語教育法の研修をしました。いろいろな体験ができて、よい勉強になりました。きっと今後の日本語教育に役立つと思います。

T I J 東京日本語研修所のことは前、名を聞いたのですが、今詳しく理解しました。実は研修所は設立以来、留学生に対する日本語教育だけでなく、一般生活者に対する日本語、企業関係者に対する日本語教育、日本語教師の育成、日本語教材の開発などを行ってきました。だからこそ、私たち3人に教育能力をつけさせようと研修の機会をくださいました。

ベトナム、フィリピン、タイ、中国…T I Jの留学生達はいろいろな国から来ています。みんな日本語を勉強する意欲が強く、しかも真面目です。T I Jでは目的の違いにより、いろいろなコースを設定しています。留学生のために、日本語のレベルによって、クラスを上級、中級、初級に分けています。それで、学生たちは気軽に日本語を勉強することができます。それに、自分の目的を達成することもできます。

T I Jの先生方は優しいです。授業をするとき、優しいです。たとえ学生が間違えたとしても、丁寧にその間違いを直してあげます。このほか、学生が生活でのトラブル、人生設計まで何でも相談できます。先生方は「日本のお母さん」のように親切にしてあげます。

また、T I Jの授業のやり方はとてもいいと思います。とくに感心したのは、学生たちに「使える日本語」能力をつけさせ、自分の考えを発信できるように、先生方はいろいろ工夫をすることです。学生たちに発言の機会を与え、どうにか声を出させようとして頑張れと励まし、先生方はいろいろ考えています。会話、討論、ディベートなど、いろいろなやり方で授業をします。このようにして、学生達の会話能力、実際の応用能力は効果的に高められていきます。

今度の日本の旅は日本語の研修だけでなく、観光や交流といった日本の魅力を学ぶことができました。私は見聞を広めることができました。

たとえば日本の寿司屋で寿司を食べたことです。コンピュータで注文したんです。コンピュータで注文するのは初めてで、不思議な感じがありました。「最近、外国からのお客様が増えてきましたので、お寿司屋さんもいろいろ面白いアイデアを考えて、お客様にサービスしているようです。お客は、コンピュータを使って、テレビ画面を見な

から『食べたい寿司』をクリックすると、それが板場にいる寿司職人の見ている画面にも出ますから、寿司職人たちは急いで注文の寿司を握り、それを列車に乗せて、お客様のいる席まで運ばせます。このシステムのおかげで、寿司職人や接客係の数が少なくすみずみです。店は最初の設備投資にお金を使いますが、あとは給料もボーナスも少なくすみずみです。お客の方は、以前のように、寿司職人と言葉を交わしながら注文できませんから、ちょっと寿司屋の雰囲気はなくなって寂しい気がします。でも、コンピュータ注文の方が早くて便利だとわかってくると、そのシステムに慣れてしまいます。」と友人の杉山先生も詳しく紹介してくださいました。

東京ディズニーランドに行ったときは、素晴らしさに感激しました。「この刺激から夢が始まる」という文を見て夢が始まる雰囲気も溢れている感じがしました。

研修時間は短いものでしたが、日本での体験は有意義で、楽しかったです。大変よい勉強になりました。本当にありがとうございました。今後は、T I Jの先生方の教え方を私達なりに生かして、平湖の学生たちの日本語能力を上げるために頑張りたいと思います。日本語と日本文化の伝道者・教師としてもっと活躍したいと思います。機会がありましたら、またぜひお目にかかりたいと思っております。

北京の日本語教育体験

櫻井 優子

私は北京の大学で1年間日本語を教えていました。私が担当した学生は北京に中国語を勉強に来た留学生で、第二外国語として日本語を選択した韓国人やタイ人、ロシア人、トルクメニスタン人、フランス人、ポーランド人などでした。今回は中国の日本語教育の特徴と、国際色豊かな学校でどのような授業をしていたのか紹介したいと思います。

中国の日本語教育については、国際交流基金の2012年の調査によれば、学習者は増加傾向にあり、アニメやマンガへの興味や、将来の就職で有利になると考えて勉強している学習者が多くいると言われています。

しかしながら、私が北京へ行った2011年は東日本大震災が3月にあり、中国人にとって地震への恐怖及びそれに関連する数々の問題を懸念して、日本留学をあきらめる人が多く、新規の日本語学習者も減ったように思われました。それは私が担当した留学生も同様でしたが、そうした中でも日本の科学技術への憧れや、アニメなどに強い興味を持って、日本語を勉強したいという意欲的な学生がいました。そういう学生たちと一緒に勉強してきました。

授業は日本語で日本語を教える直接法でした。母語が異なる学生を前に、日本語しか使わない私を見て驚いている学生も初めは多かったです。少しずつ慣れてきたようでした。予習は母語で単語などを調べてきてもらい、授業中はパワーポイントの絵でイメージを共有しました。絵が日本語の理解を手助けしてくれました。

学校の設備に関しては、各教室にオーディオ機器が備え付けてありました。そして、授業の進め方に関しては、パワーポイントで行うよう指示がありました。パワーポイントで授業を行うメリットは、コピー代や用紙の節約及び、教員が板書する時間を節約で

きるところにあるそうです。アナログ人間な私にとっては、使い方がわからず準備に時間がかかったり、むしろ学生から使い方を聞いたりしながら、なんとか対応していきました。

実際に使ってみると、スクリーンで学生全員に見せられるので、配布物が少なく済み、コピー用紙はあまり使わなかったと思います。また教員が板書する時間が省けるので、すぐ学生が問題に取りかかることができました。教科書の例文なども書面上で読むよりも、パワーポイントで映し出したスクリーンで、絵などを一緒に出しながら、皆で前を向いて、イメージとともに言葉を覚えると楽しいと思います。また、時間配分などもしやすく、便利な点多々ありました。

しかしながら、板書している時間が学生にとっては考える時間となったり、板書しているときの教員の書く書き順や、手書きの字を見て覚えたりすることもあり、板書も大事だと思いました。それからパワーポイントで具体的な絵を提示してしまうために、学生の持つイメージが固定化されてしまうのも問題だと思いました。言葉の持つイメージを学生自身が描けるように手助けするために、もっと事例を出すなど、工夫すべき点があったと思っています。

北京における第二外国語としての留学生への日本語教育は、共通言語や共通の態度がないようで難しく思われましたが、学生の意欲や協力のおかげで、なんとか乗り越えることができました。本当に忘れがたい一年間となり、これからの基盤としていきたいと考えています。

留学体験記（中国 上海復旦大学）

山下直子

2015年1月よりTIJの一員となり、早速「TIJ日本語教育研究会通信」のお話をいただいた時には驚きましたが、私の経験が少しでもTIJの学生にお役に立てたらと思っています。

私は2007年から2008年の1年間、中国の上海復旦大学 新聞学院に留学しました。小学生時代にも父親の仕事の関係で、家族で上海に滞在をしていたため、「中国」に対して元々親しみを持っておりました。しかし当時は日本人学校に通っており、中国語を話す環境にはなかったため、「話せるようになりたい」という気持ちが留学を考えたいきっかけでした。また大学同士がプログラム提携をしていたため、単純な語学留学ではなく、現地の学部で中国人と共に授業が受けられ、2つの大学の学位を取れることは非常に魅力的であったため、決意しました。

ただ冒頭にも申し上げた通り、中国語は殆ど話せなかったため、留学前は必死に勉強しました。リスニングはラジオのニュース、読解はドラマの字幕で力をつけました。また大学内の中国の学生と友達になり、毎週一定の時間を決めて会話をすることで徐々に慣れてきました。こうして、がむしゃらにやっているうちに、留学前にはなんとか話せるレベルになりました。

そしていよいよ留学生活がスタート。。覚悟はもちろんしておりましたが、中国人と同じ授業を受けるため、講義の内容は専門用語や経済用語だらけで、最初は授業に付いていけませんでした。加えて方言がきつい人も多く、聞き取れないことに落ち込むこともありました。また思っていることを上手く表現できずに相手に伝わらず、時にはストレスも感じました。

しかし一方で、こうした厳しい環境のおかげで、「分からない時は分かるまで聞く」習慣が身につきました。授業の内容は、中国人の友達のノートをコピーさせてもらい、授業が終わった後に復習。それでも分からない時はまた友達に確認をする、ということを通り返しました。大学ではプレゼンテーションをする機会も多くあり、資料作成時にはその都度友達に見てもらいました。また、居住証明書発行や銀行、携帯電話の手続き等、聞き取れないでそのままにしているのは済まないことも多々ありました。そのため、時には事務のおばちゃんに嫌がられながらも分かるまで確認をしました。

正に「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」。こうした姿勢は語学を身につける上で非常に大事だと思います。私も留学に行く前は、聞き取れなくてもつい、知ったかぶりをすることもありましたが、しかし、分かるまで聞いてしっかりと理解をすることで、生きた言葉を学べたと実感しております。

また留学では、現地の友達や様々な国の友達と交流できたことが何よりも財産だったと思います。一緒に旅行をし、食事をする中で、月並みな言葉ではありますが「文化や習慣」を多く学ぶことができました。特に思い出に残っているのは、クラスの女子全員で行った婺源で、夜に”ガールズトーク”をしたことです(笑)

上記のような経験をしてきたからこそ、TIJの学生には日本語を貪欲に勉強して欲しいし、是非TIJ内外に関わらず、積極的に日本人や他の国の人と交流をして、文化を肌で感じてほしいと思っております。また、私自身も情報の発信やイベントを企画することで、交流しやすい雰囲気を作り出していけたらと思っております。